

2019/1

No.26



医療法人 成精会

刈谷病院

# Harmo-net ハモネット

## 2019年 年頭挨拶 これからの刈谷病院

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。今年の干支はイノシシです。イノシシを用いた言葉に猪突猛進があります。これには、「目標に対して、向こう見ずに突き進むこと」という意味があります。時にはそういったことも必要ですが、刈谷病院は、我が国の精神科医療・福祉の状況や先を見すえて邁進してまいります。そこで今回はこれからの刈谷病院について考えてみました。

### 入院診療

入院診療では、救急医療の高機能化をこれからも進めてまいります。新しい技術や知識を取り入れながら、入院が必要な患者さんには迅速な入院受け入れを行い、入院後は少しでも早く回復し住み馴れた地域に戻っていただけるよう努力を重ねていきます。同時に長期入院患者さんの地域移行・地域支援にも力を入れていきます。

### アウトリーチサービス

この入院と外来診療の流れにアウトリーチサービスが加わると、より一層スピーディーかつ手厚い医療を行うことが可能になります。アウトリーチサービスは「Out(外へ)reach(手を伸ばす)」という意味で訪問型の支援サービスのことで、精神科医や看護師、作業療法士、精神保健福祉士などさまざまな職種がチームを組み、支援が必要な人のもとを訪問します。様々な理由で適切な治療を受けることなくひきこもり状態になっている人や治療を中断してしまった人などに、地域の福祉サービス事業所や、保健所、市町村といった行政と連携をとって、必要な支援を届けることができます。また、病状が安定せず1年以上の長期入院や何回も入退院をくりかえしている人に、住み馴れた自宅で手厚い支援を受けることで、長期入院や再入院を防ぐこともできます。全国には様々な取り組みがありますが、まだ普及していない現状があり、この地域と刈谷病院に合う在宅支援はどうあるべきか今後検討していく必要があります。

### 外来診療

外来診療では、多様なニーズに対応した新たなリハビリテーションプログラムを模索しています。地域に色々な障害福祉サービスが増えてきました。その中で、利用する方々のニーズをくみ取り、刈谷病院としてどのようなリハビリテーションプログラムを提供し、地域の障害福祉サービスと連携を取っていくかが課題となっています。

### 依存症治療

昨年9月に愛知県からこれまでの活動を評価され、アルコール健康障害の依存症専門医療機関、依存症治療拠点機関に選定されました。これを受け「刈谷アディクションセンター」を10月に部門として立ち上げました。今までも、アルコール健康障害の医療、啓発、相談支援、連携ネットワーク作りに注力してきましたが、特に、衣浦東部保健所と共に事務局を担ってきたアルコール地域連携モデルは全国から注目されています。これからはアルコール健康障害の依存症治療拠点機関としてこれらの活動を愛知県全体に広げていく役割を求められています。また、近年話題になっている薬物依存症やギャンブル依存症といった他の依存症にも対応していきます。

これらの依存症の治療技術を向上し、アルコール健康障害でつちかったネットワーク力を生かした活動を続け、いずれはこれらの依存症の依存症専門医療機関、依存症治療拠点機関として選定されることを目指します。

### 発達障害支援

刈谷病院は平成13年に児童外来を開設しましたが、その頃に受診した子供達が成人を迎えつつあります。また、思春期や成人後に引きこもりや職場での不適応などで発達障害を疑われ、受診につながる事例が増えています。さらに、興奮や著しい問題行動などによって入院にいたる重度発達障害の事例も増えてきています。今後、外来機能として発達障害に対応できる医師数を増やしていくことが課題です。同時に、地域との連携につとめて幼児期から成年期以降まで切れ目のない地域支援システムの構築に積極的に参画すると共に、そのようなシステムの中で医療が果たす役割を明確にしていくことが求められています。

### 地域とともに築く医療福祉ネットワーク

総じて言えることは、精神障害の治療支援には、医療支援と同等に生活支援が重要です。生活支援については、刈谷病院単独の力には限りがあります。これまでも地域支援者皆様のご協力の下、地域連携を生かした医療、生活支援に取り組んでまいりました。これからもより一層地域連携を重視していきます。アウトリーチサービスについて述べたように病院スタッフが積極的に地域に出ていき、専門医療という強みを生かしてネットワークに参加し、この地域の心の健康づくりに参画してまいります。



院長  
垣田 泰宏

### ゆたかな心、こまやかな関わり、最新の医療

#### 当院の理念

- ① 患者さんに差別のない目、ゆとりのある態度で接すること
- ② 患者さんの立場にたった思いやりのある態度で接すること
- ③ 従来の自分たちの治療に満足せず、常に新しい医療に目を向け、より良い治療を目指すこと

#### 当院の基本方針

- ① 丁寧な説明と意思決定のもとに医療と福祉を実践します
- ② 安心、安全な医療福祉環境作りに積極的に取り組みます
- ③ 精神科救急に積極的に取り組みます
- ④ 精神科リハビリテーションに積極的に取り組みます
- ⑤ 障害者の地域生活支援に積極的に取り組みます
- ⑥ 地域の医療機関、行政、福祉施設をはじめ、すべての社会資源との連携に積極的に取り組みます
- ⑦ 精神保健医療福祉についての啓発活動に積極的に取り組みます
- ⑧ 職員の研修と研鑽に積極的に取り組みます



# 病院の防火管理



第2回目の刈谷病院委員会特集は「防災委員会」です。当院では主に施設課がその役割を担っています。近年は、火災対策に加え地震対策や大雨対策なども大きな課題となっています。今回は防災委員会に所属している防火管理者の中神さんに、当院の防災訓練について解説してもらいました。

病院、診療所等の医療施設は、消毒用アルコールや医薬品、酸素吸入器や放射線治療機器等の特殊な機器及び装置が多数設置されていることから、他の用途の建物に比して多様な出火危険に配慮する必要があります。

そこで、当院では春と秋の年2回、総合防災訓練を実施しています。当院は「特定防火対象物」にあたり、消防法により年間2回以上の消火訓練及び避難訓練の実施が定められています。そのため、訓練内容を事前に消防機関に届け出ることになっています。訓練の基本的な内容として消火・通報・避難の種別があり、火災想定、地震想定、夜間想定等、訓練内容を決定しています。外出ができ、移動に支障がない患者さんに参加してもらい防災訓練を行っています。



写真1 院長が隊長となり指揮をとります



写真2 全館放送で避難指示



写真3 消防へ連絡



写真4 避難状況の報告

「防火管理」とは火災の発生を予防し、かつ火災が発生した場合でもその被害を最小限にとどめるため、必要な万全の対策を立て実行することです。「自らの生命、身体、財産は自らが守る」という自主防火管理が原則です。病院においては火災等の災害から患者さん及び、職員の安全をいかに確保していくかが重要となってきます。



# 知っておきたい 精神科基礎知識 【せん妄】



## ◆ せん妄とは？

せん妄は高齢者に見られやすい急性の脳機能不全で、意識や注意の障害が起こります。症状が似ているために認知症と間違われることもあります。「身体の病気で入院した途端、急にボケてしまった」というようなエピソードが典型的な事例です。一般病院の入院患者さん(65歳以上)の10～42%で見られると言われており、決して珍しい病気ではありません。

## ◆ 症状や原因

診断基準を簡単にまとめると、「注意力や理解力、記憶力などが低下している」「症状が短期間のうちに出現し、1日のうちでも変動する」「身体疾患や薬などが原因で起こる(他の精神疾患から起きているのではない)」の3つが重要です。

### • 注意力や理解力が低下する

言うことの辻褄が合わなかったり、記憶が曖昧で今日の日付や今いる場所が分からなくなったりします。また、幻覚や妄想などのおかしなことを訴えたり、時には興奮して点滴を引き抜いてしまったりします(過活動型せん妄)。あるいは逆に、起きてはいるがぼんやりとしたり朦朧としていることもあります(低活動型せん妄)。後者の低活動型せん妄は、前者の過活動型せん妄と比べて目立たないために見逃されやすいと言われています。

### • 短期間で出現し、変動する

上記の症状が、短期間のうちに急に出現し、1日の中でも変動する傾向にあります。この点が認知症と見分ける際のポイントです。特に夜間に症状が現れやすく、夜眠らずに興奮し、昼夜逆転になってしまっていることも多いです。

### • 身体疾患や薬などが原因で起こる

身体の病気や手術、特定の薬剤(一部の睡眠薬や風邪薬、胃薬、抗生剤、麻薬性鎮痛剤など)によって脳に負担がかかることが原因で起こります。若い人でもなり得ますが、高齢者や認知症の方など、脳の機能が低下し余力が少なくなっている方に起こりやすいのが特徴です。また、環境の変化や心理的なストレスなどがあるとより起こりやすくなります。

## ◆ 治療

せん妄を治す上で一番重要なのは、原因となっている身体の病気を治療したり、特定の薬剤を中止したりすることで、脳への負担を改善させることです。これは多くの場合、内科の医師などと協力・連携して行います。それと並行して、抗精神病薬による薬物療法を行います。日本では健康保険上認められているのはチアプリドですが、実際には有効性が知られている他の薬剤(リスペリドン、クエチアピンなど)もよく使われます。また、昼間の覚醒を促して昼夜のリズムを正したり、馴染みの物を置くなどして環境の変化を和らげることもせん妄の改善に役立ちます。

せん妄は認知症と違って一過性のものですが、長引くと認知機能の低下や死亡率の増加につながる事が分かっているため、早めに治療することが重要です。もし家族がせん妄に当てはまるとしたら、早めに専門医に相談して下さい。



## 表彰



このたび地域支援事業部の鶴田精神保健福祉士が、厚生労働大臣より、長年の功績にたいして表彰されました。



## 病院機能評価

日本医療機能評価機構による書面審査および6/27、28に実施された訪問審査の結果、病院機能評価3rdG:Ver2.0精神科病院(200床以上)に認定されました。



# カリヤ 病院物語

パート2 第4回

注：このマンガはフィクションです。



<漫画制作/キャラクターデザイン>  
あいち造形デザイン専門学校 まんが科 中西 淳子さん

## ～ナイアシンをとって心を穏やかに～ 心もほっこり豆乳鍋



### 材料 (2人分)

豚こま(とり肉でもOK) ..... 150g  
切り身魚 ..... 1切れ  
鍋物用野菜セット ..... 1袋  
木綿豆腐 ..... 150g  
調整豆乳(☆市販の豆乳鍋の素でもOK) ..... 1カップ



水 ..... 2カップ  
鶏ガラスープの素 ..... 大さじ0.5  
④ 麵つゆ(3倍濃縮) ..... 大さじ2.5  
砂糖 ..... 小さじ1  
おろししょうが ..... 大さじ0.5

### 作り方

- 鍋に④、肉、半分に切った魚、鍋物用野菜セット、豆腐を入れ、火をつける。
- 煮立ってきたら、肉、野菜に火が通るまで煮る。
- 弱火にして豆乳を入れ、5分ほど煮る。(強火にはしないこと。豆乳が分離してぼそぼそになってしまいます。)

### ワンポイント



“ナイアシン”は「幸せホルモン」と呼ばれるホルモン“セロトニン”を作るために必要な栄養素です。魚、肉、大豆製品、乳製品などに多く含まれていて、気持ちを安定させる効果があると言われてます。ナイアシンは水に溶けやすいので、まろやかな豆乳ベースの鍋つゆも摂るようにしましょう。

管理栄養士 大石 眞琴

★便利なカット野菜を使って、お安く簡単に栄養たっぷりのお鍋を作っちゃいましょう。  
冬は体も温まり、風邪予防にも最適ですよ。

## 患者さんの権利

- 人間としての尊厳が認められる権利
- 平等に医療を受けられる権利
- 十分な説明を受け、知る権利
- 医療を選択し、自己決定する権利
- 治療スタッフを知る権利
- 個人情報の秘密が厳守される権利

## 患者さんの責任

- 治療上のルールを守り、治療に参加する責任
- 治療上で必要な情報を提供する責任
- 医療費を支払う責任

## 編集後記

平成最後の年、新元号に代わる2019年がスタートしました。私も刈谷病院にお世話になって3年目に入りますが、昨年を振り返ると病院機能評価の受審、あつたかハートまつりの参加などはじめての体験が多数ありました。このハーモネットの編集もそうです。さあ、今年は何なことが待ち受けているでしょう。

広報委員 神谷

## 神経科・精神科

医療法人 成精会

# 刈谷病院

編集・発行

〒448-0851 愛知県刈谷市神田町二丁目30番地

TEL (0566)21-3511 FAX (0566)21-3536

http://www.kariya-hp.or.jp 携帯HP / http://www.kariya-hp.or.jp/i



### 交通のご案内

- 国道23号線 野田ICから車で10分 上重原ICから車で10分 無料駐車場 117台
- JR東海道線刈谷駅 南口より徒歩10分
- 名鉄三河線刈谷駅 南口より徒歩10分

